

# こながい 小長井よしお 県議会報告



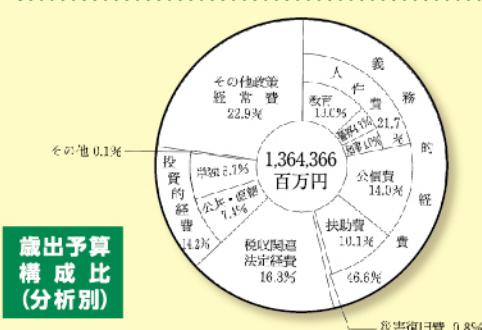
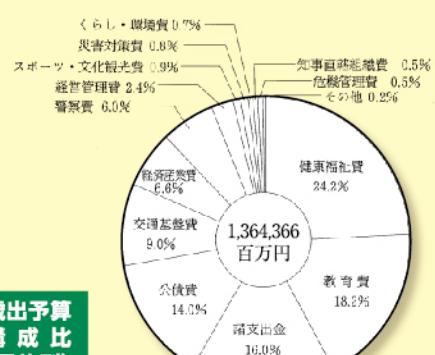
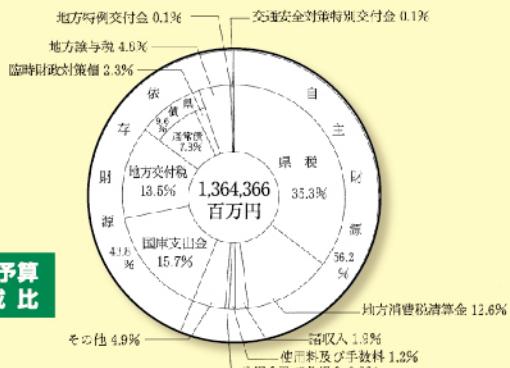
2022年03月発行

## 2022年度 新年度予算

### 富国有徳の「美しい“ふじのくに”」づくり

令和4年度の一般会計歳出予算総額

**1兆3,643億6,600万円**  
(前年度比550億円、4.2%を上回る。)



### ■第1の柱 「安全・安心な地域づくり」

- 防疫対策の強化  
(防疫先進県を目指す)
- 地震津波対策  
(地震・津波対策アクションプログラム2013の推進)
- 県土強靭化  
(道路、河川、港湾などの機能強化や老朽化対策の推進)



### ■第2の柱 「持続的な発展に向けた新たな挑戦」

- 環境と経済が両立した社会の形成  
(脱炭素社会の構築・省エネ社会・再エネ導入)
- 地域循環共生圏の形成  
(ワーケーションスタイルの構築・スマート農業の展開)
- 豊かな社会を支える命の水の保全  
(静岡県水循環保全条例の制定)



### ■第3の柱 「未来を担う有徳の人づくり」

- ヤングケアラーへの支援  
(スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの増員)
- 特別支援学校の整備  
(静岡地区に特別支援学校の整備を進める)
- 県立学校の老朽化対策  
(2校4棟の建て替え設計の着手)



### ■第4の柱 「豊かな暮らしの実現」

- 地域主導型の経済政策「フジノミクス」の推進  
(バイ・山の洲の推進)
- 富を支える地域産業の振興  
(地域企業の新たな事業展開を促進)
- 農林水産業の競争力の強化  
(有機農業の推進等)



### ■第5の柱 「魅力の発信と交流の拡大」

- スポーツの聖地づくり  
(スポーツを核とした地域づくり)
- 資源を活かした観光交流の拡大  
(持続可能な観光地づくり)
- ガストロミツーリズムの推進  
(和の食文化をツーリズムに取り入れる)



# 制定された主な条例

## 「静岡県盛土等の規制に関する条例」

熱海市伊豆山地区の土石流災害を受け、必要な規制を行うことで、二度と同様の災害を発生させないために、盛土等の規制条例を制定した。

### 《主な内容》

- 汚染された土砂等を用いた盛土等の禁止。
  - 一定規模以上の盛土の許可制。(面積1,000m<sup>2</sup>以上 土砂等の量1,000m<sup>3</sup>以上)
  - 許可申請前に住民説明会の実施。
  - 土砂等の発生元及び汚染のおそれがないことの確認、報告。
  - 管理台帳を作成し、土砂量の報告、水質・土壤調査の実施と報告。
  - 標識の掲示や関係書類の閲覧。
  - 土地所有者に状況確認等の報告義務。
  - 措置、停止命令を受けた者の氏名や内容の公表。
- など



## 「静岡県水循環保全条例」

異常気象に伴う水循環の変化への対応や、外国資本等による水源地域の土地買収・占め、太陽光発電所の建設等による水環境への悪影響の回避と健全な水循環の維持、回復を目指すために制定した。

### 《主な内容》

- 「静岡県水循環保全本部」を設置して、施策を総合的に推進する。
  - 「流域水循環計画」を策定して、健全な水循環の保全施策を推進する。
  - 水源保全のために「水源保全地域」を指定。
  - 土地取引等及び開発行為について、事前届出制の導入。
  - 土地取引等又は開発行為に関し、土地への立ち入り調査等を実施。
  - 違反行為には勧告。従わなかった場合等は命令。さらに内容の公表。
- など



# 3つのトピックス TOPICS

## ■「みどりの食料システム戦略」について

農林水産業全体の生産力を、持続可能性と矛盾することなく高めていくことを目標として、30年後の2050年までに目指す姿を示した。農水省の調査では、日本は農業基準が緩く、有機農産物が生産・消費に占める割合も諸外国より低い。

### 農業分野で目指す、30年後の姿(目標)としては4点

- 農林水産業のCO2(二酸化炭素)ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換を図り、化学農薬の使用量を50%低減(リスク換算)
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕作面積に占める有機農業の面積を25%(100万ha)に拡大

### 《具体的な取組》

- 地産地消型エネルギー・システムの構築。
- 新たなタンパク資源(昆虫等)の利活用拡大。
- スマート技術によるピンポイント農薬散布やデータに基づく施肥管理。
- 食品ロスの削減。
- 見た目重視の消費者・流通業者の意識改革を進める。
- 環境を考えた食料、原材料の輸入促進。等

## ■リニア新幹線の有識者会議における中間報告について

「リニア新幹線有識者会議」で、中間報告が取りまとめられました。

### 《中間報告に対する県の見解》

- JR東海によるデータの提示や解析、リスクへの対策は不十分。
- 説明も分かりにくいため、改善のための助言・指導が行われた。
- リニア工事期間中も含めトンネル湧水の全量戻しが必要であると示された。
- 県の専門部会で対話を再開できる素地ができた。
- 工事中のトンネル湧水の全量の戻し方は、示されていない。
- 水温・水質への影響、発生土の処理方法も課題として残された。
- 生態系への影響については、議論はされていない。



以上のことから、静岡県としては、現状では、**南アルプストンネル工事を認める**ことのできる状況にはないと考えている。

国土交通省には、県とJR東海の対話のため、生物多様性の問題について、積極的な関与と今後の有識者会議の開催を求めた。

## ■「南アルプスを未来につなぐ会」の設立

南アルプスは、ユネスコエコパークに登録され、貴重な自然環境を有する世界の宝です。しかし、その基盤は脆弱で、自然環境や生物多様性を守れなくなる恐れがある。そこで、南アルプスの自然環境を未来につなぐために、「南アルプスを未来につなぐ会」が設立された。

自然環境を取り巻く現状を伝えるほか、自らができる持ち寄り、主体的に行動・協働し、この思いに共鳴・共感する様々な分野の人々が集うことで、行動の輪をひろげていく。

### 《南アルプスへの取り組み》

- 自然環境の保全や活用に関する「思い」の共有。
- 将来にわたる保全活動や利活用に関する意見交換と連携の促進。

### 賛同者を募っています。

※南アルプスを愛する方なら、だれでも入会でき、会費の徴収はしません。  
※入会するには、静岡県のホームページで「南アルプスを未来につなぐ会」にアクセスして、入会申込書等に記入の上、申し込みください。